

# 台湾映画祭+ シンポジウム

侯孝賢の詩学と時間のプリズム



6/25日

【会場】  
愛知芸術文化センター  
12階 アートスペースA

このイベントは  
東日本大震災の  
チャリティ事業として開催します。  
入場の際に募金へのご協力を  
お願いします。

台湾映画を代表する世界的巨匠・侯孝賢監督の作品上映

上映作品『悲情城市』『百年恋歌』

侯孝賢監督と脚本家朱天文氏を囲む座談会

（お問い合わせ） 愛知県文化情報センター  
tel.052-971-5511（内線）532 fax.052-971-5605  
E-mail/bunjo@aac.pref.aichi.jp URL/http://www.aac.pref.aichi.jp

6/26日

【会場】  
名古屋大学文系総合館7階  
カンファレンスホール

入場  
無料

国際シンポジウム 国内外の研究者による講演や  
研究発表、パネルディスカッション

（お問い合わせ） 名古屋大学大学院国際言語文化研究科・星野幸代  
E-mail/hoshino@lang.nagoya-u.ac.jp URL/http://www.nagoya-u.ac.jp/

# 台湾映画祭 + 国際シンポジウム

— 侯孝賢の詩学と時間のプリズム —

6月25日(土)

会場:愛知芸術文化センター12階 アートスペースA 名古屋市東区東桜1-13-2(「栄」駅下車、オアシス21経由徒歩3分)  
(定員180名、申し込み不要、入れ替えなし\*定員を超えた場合、入場をお断りすることがあります)

お問い合わせ:愛知県文化情報センター Tel. 052-971-5511 内線532 Fax. 052-971-5605 E-mail: bunjo@aac.pref.aichi.jp

台湾を代表する世界的な映画監督・侯孝賢の作品『悲情城市』『百年恋歌』の上映と侯孝賢監督及び脚本家朱天文氏を囲む

10:00 ~ 12:15 映画上映『百年恋歌』(135分)

13:30 ~ 16:10 映画上映『悲情城市』(159分)

16:30 ~ 18:30 映画祭開催にあたって  
前野みち子(名古屋大学教授)  
台湾行政院文化建設委員会代表

このイベントは東日本大震災のチャリティ事業として開催します。  
入場の際に募金へのご協力をお願いします。

座談会「侯孝賢監督と朱天文氏を囲んで」

司会/藤木秀朗(名古屋大学教授)

葉月瑜(香港・バプテスト大学メディア学部教授)

盧非易(台湾・政治大学メディア学科副教授)

池側隆之(名古屋大学准教授)

通訳/小坂史子、秋山珠子

6月26日(日)

会場:名古屋大学文系総合館7階カンファレンスホール 名古屋市千種区不老町(地下鉄名城線「名古屋大学」下車すぐ)

お問い合わせ:星野幸代 E-mail: hoshino@lang.nagoya-u.ac.jp URL <http://www.nagoya-u.ac.jp/>

入場無料

9:30 開会挨拶 前野みち子(名古屋大学教授)

9:45 ~ 10:45 基調講演  
藤井省三(東京大学教授)「『百年恋歌』の中の台湾百年史」

11:00 ~ 12:00 基調講演  
張小虹(台湾大学教授)「Shotと Milieu」

~昼休み 1時間20分~

13:20 ~ 14:20  
陳儒修(台湾・政治大学メディア学科副教授)  
「[二十年後の]『悲情城市』再考—音声、映像、時間、空間」  
コメンテーター/藤木秀朗(名古屋大学教授)

14:30 ~ 15:30  
ジェームズ・アデン(ゲティスバーグ大学准教授)  
「侯孝賢の『悲情城市』—国の内と外の文化大使」  
コメンテーター/ダレル・ウィリアム・デイヴィス  
(香港嶺南大学視覚研究学科名誉副教授)

15:40 ~ 16:40

ミツヨ・ワダ・マルシアーノ  
(カールトン大学准教授、国際日本文化研究センター研究員)

「侯孝賢の歴史との対話—『珈琲時光』」  
コメンテーター/廖炳恵(カリフォルニア大学サンディエゴ校教授)

17:00 ~ 18:30

ラウンドテーブル「侯孝賢の詩学と時間のプリズム」

司会/藤木秀朗

パネリスト/藤井省三、張小虹、陳儒修、廖炳恵、  
ジェームズ・アデン、ミツヨ・ワダ・マルシアーノ、  
ダレル・ウィリアム・デイヴィス

通訳/秋山珠子、三輪泰子、許時嘉

総括 及び 閉会の辞

前野みち子、薛化元(財団法人自由思想学術基金会)

## ■ 侯孝賢(ホウ・シャオシェン)

1980年代に台湾ニューシネマの旗手として登場して以来、数々の国際映画祭で高い評価を受け、いまや世界に名高い巨匠として知られる台湾を代表する映画監督。1947年、広東省に生まれ、生後まもなく台湾に移住。1972年に国立芸術専科学校卒業後、脚本家、助監督を経て1980年に『ステキな彼女』で監督デビュー。『風櫃の少年』(1983年)と『冬の夏休み』(1984年)で連続してナント三大陸映画祭グランプリ、次作『童年往事』ではベルリン国際映画祭・国際映画批評家賞を受賞し、一躍脚光を浴びる。1989年の『悲情城市』ではヴェネチア国際映画祭で金獅子賞。この作品に『戲夢人生』(1993年)と『好男好女』(1995年)を合わせて歴史3部作といわれる。2000年代に入っても、小津安二郎生誕100年祭に寄せた『珈琲時光』(2003年)や今回上映する『百年恋歌』(2005年)をはじめ、斬新で意欲的な作品を次々と発表し続けている。

## ■ 朱天文(チュウ・ティエンウエン)

1956年8月台湾、高雄鳳山生まれ。父は作家、母は翻訳者、妹二人も文筆家という文学一家として知られる。16歳で小説家としてデビュー、短編小説で数々の文学賞を獲得する。1994年には初の長編小説『荒人手記』にて第一回時報文学百万小説賞を受賞。自著が映画化された際、助監督であった侯孝賢と出会い、『風櫃の少年』(83)以降侯監督作品のパートナーとなる。『悲情城市』の脚本では朱天文がシーン割りを執筆、呉念真(作家・脚本家・俳優)が台湾語でセリフをつけている。『百年恋歌』は侯孝賢との共同執筆。『安安の夏休み』、『世紀末の華やき』、『荒人手記』などの小説が邦訳されている。

